日本沙漠学会ニュース

OASIS 31(4)2021
〔No.117 March 2021〕
News and Communications of
The Japanese Association for
Arid Land Studies

おあしす

ジブチの植物（Feb. 2022）

マスカリ島の *Avicennia marina* 純林
（Maskali Island, Gulf of Tadjoura）

洋上からジブチのマングローブを望む
（Moucha Island, Gulf of Tadjoura）

Avicennia marina の呼吸根
（Maskali Island, Gulf of Tadjoura）

ムシャ島の *Rhizophora mucronata* 純林
（Moucha Island, Gulf of Tadjoura）

ダイの森・山頂からの眺め
（Day Forest, Tadjourah）

ムシャ島の *Ceriops tagal*
（Moucha Island, Gulf of Tadjoura）

ドラゴンツリー *Dracaena ombet*
（Randa, Tadjourah）

アカシア林・背後にはゴダ山脈
（沿岸部，Tadjourah）

Juniperus procera の立ち枯れ
（Day Forest, Tadjourah）

アカシアとアロエが混生している様子
（Day Forest, Tadjourah）

（写真：檜谷昂）

日本沙漠学会 2022 年　第 33 回学術大会（北海道大会）開催のお知らせ（第三報）

昨年度（第 32 回大会として）開催企画していたものの，新型コロナウィルス感染症の影響により延期となりました北海道での学術大会を，2022 年 6 月 11 日～12 日に足寄町にてオンライン - オンサイトのハイブリッドで開催することを決定いたしました．

新型コロナウィルスの感染状況の急変により，オンサイト開催中止（オンライン開催は行います）となる可能性もございます．Web ページでのアナウンスの確認をお願いします．

---

1. 大会予定概要

【日時候補日】2022 年 6 月 11 日（土）～12 日（日）

【会場】足寄町民センター・多目的 ホール

https://obikan.jp/convention-guide/post_venue/post_venue-9143/

【宿泊】ホテル・レウスアショロ，ビジネスホテル足寄館，

北海道立青少年体験活動支援施設ネイパル足寄（各自ご予約下さい）

【口頭発表】2022 年 6 月 11 日（土）

【ポスター発表ショートプレゼンテーション】オンライン同時配信（Zoom）

【総会】2022 年 6 月 11 日（土）12：30～13：00（ハイブリッド開催）

【企画シンポジウム】2022 年 6 月 11 日（土）13：00～14：40

「放牧酪農と SDGs」（別項ポスター参照）

演者：平田昌弘氏（帯広畜産大），北野紘平氏（足寄町），荒木和秋氏（酪農学園大）

司会：星野仏方氏（酪農学園大）

【懇親会】6 月 11 日（土）ハスカップ園　17：00～20：00

【エクスカーション】6 月 12 日（日）放牧牧場，緬羊牧場，農園の視察を予定

【アクセス】

・チャーターバス：6/10（金・大会前日）16：00 新千歳空港出発予定

6/12（日）エクスカーション終了後出発，新千歳空港 17：00 着予定

※バス代金：1 人往復 1 万円程度（領収証発行可能）

※バス収容人数の関係による，申込み順 40 名で締切りとさせていただきます

・公共交通機関：

とかち帯広空港－（連絡バス）－帯広駅バスターミナル－（帯広陸別線）－足寄農協前

2. 研究発表申し込み

【発表申込 Web ページ】

発表申し込み締め切り：2022 年 5 月 6 日（金）

https://www.jaals.net/ 大会 - シンポジウム /2022- 大会 - シンポジウム / 第 33 回大会発表申込 /

【口頭発表】オンサイト（現場）による口頭発表

【ポスター発表（ショートプレゼンテーション）】Web によるポスター掲載および 3 分程度のオンライン・ショートプレゼンテーション

発表形式は口頭もしくはポスターのいずれかとします．口頭発表はオンサイト参加者のみ可能とします．

申し込まれた方には，講演要旨の様式・発表時間・参加費支払い方法等をお知らせします．

3．参加申し込み（総会出欠確認）

【参加申込】

参加申し込み締め切り：2022 年 5 月 24 日（火）

会員の方すべてがご回答ください．発表者の方も改めて参加申込み登録をお願いします．

ご欠席の場合でも総会成立のためには委任状が必要となります．現地会場参加には参加申込は必須となります．

【参加申込 Web ページ】

https://www.jaals.net/ 大会 - シンポジウム /2022- 大会 - シンポジウム / 第 33 回大会参加申込 - 委任状 /

4．参加費

【オンサイト参加】口頭発表者は北海道足寄町民センター・多目的 ホールにて発表

発表者：一般会員 6,000 円；学生会員 2,000 円

参加者：一般会員 5,000 円；学生会員 2,000 円；非学会員 6,000 円

（懇親会費・宿泊費・交通費は別途支払い必要）

【オンライン参加】

ポスター発表者：一般 2,000 円；学生 1,000 円（支払方法は追ってご連絡いたします）

Web 参加者：無料

5. 事務局

第 33 回　日本沙漠学会学術大会実行委員会　事務局

〒 069-8501　北海道江別市文京台緑町 582 番地

酪農学園大学農食環境学群・環境共生学類　星野　仏方［委員長］

TEL：011-388-4913

E-mail：jaals2022@gmail.com

詳細はホームページ　https://www.jaals.net/ をご覧ください.

学会賞審査委員からのお知らせ

日本沙漠学会若手会員のみなさんへ

学会賞担当理事　渡邊 三津子
的場 泰信

日本沙漠学会では 「奨励賞」「ベストポスター賞」を、若手研究者のみなさんを対象とした賞として設けています。

奨励賞

- 乾燥・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与されます。※ 『沙漠研究』に掲載された論文や研究業績に基づき、自薦または学会員の推薦を受けて審査されます。
- 満35歳以下の若手会員，博士課程在籍者または博士課程修了後10年以内の会員を対象としています。※　社会人経験者など「若手相当」とみなされる方は満35歳以上であっても対象となります。

ベストポスター賞

- 研究内容、表現や説明技術、熱意などが優れているポスター発表に対して授与されます。
- 学術大会でポスター発表をする満35歳以下の学部生、大学院生と大学院修了・中退後３年未満の会員が対象となります。※　社会人経験者など「若手相当」とみなされる方は満35歳以上であっても対象となります。

メリット①　自分の研究について知ってもらえる

受賞者の研究は、学術大会だけでなくホームページなどで紹介されるので自分の研究について多くの人に知ってもらえる機会になります。

メリット②　履歴書に書ける

「奨励賞」「ベストポスター賞」をもらったら、履歴書の賞罰の欄に記載できるので、就職活動にも役立ちます。

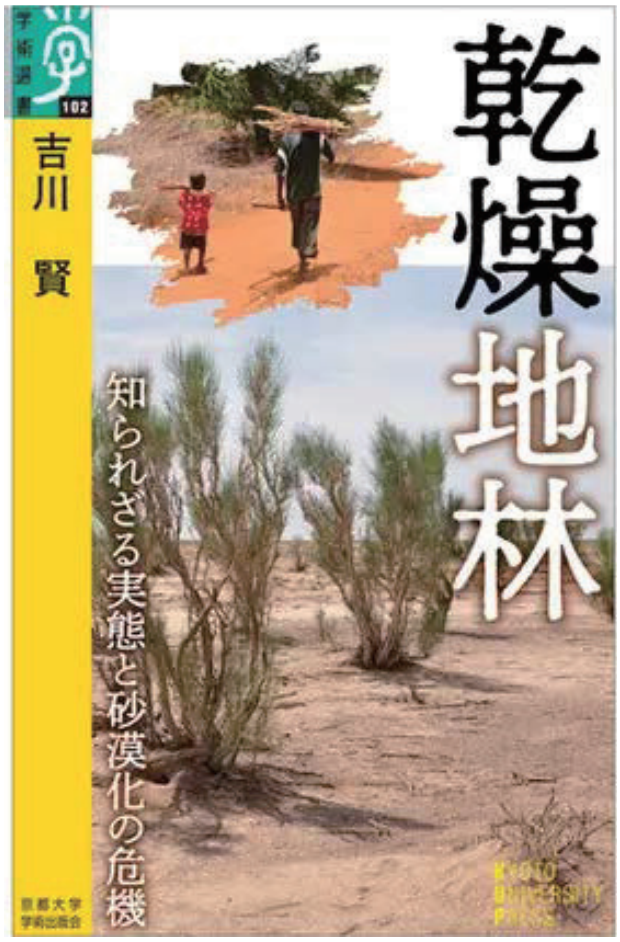
日本沙漠学会に所属する若手会員の皆さん
全員にチャンスがあります！

学術大会で発表した人は、ぜひ
『沙漠研究』に論文を投稿しましょう！

【問い合わせ先】日本沙漠学会 学会賞審査委員／E-mail：jaals@kyouritsu-online.co.jp

書評

吉川　賢：『乾燥地林　知られざる実態と砂漠化の危機』
京都大学学術出版会，2022 年，237 ページ，2000 円.



本書は，本会前会長の吉川賢氏のライフワークを一般書として読みやすくまとめたものである.

イギリスのサイエンスライターであるローランド・エノスは『「木」から辿る人類史－ヒトの進化と繁栄の秘密に迫る』（NHK 出版，2021 年）で，人類にとって始原的に木がいかに重要であったかを指摘した．しかし，霊長類が木から降りたばかりの地域に広がる疎林と，工業化が進んでから大いに開発された密林とでは，そもそも木々の生態は同じではない．そこで，水の少ない地域における木々に焦点をしぼり，「乾燥地林」と命名して注意を喚起し，そのふるまいを解説したのが本書である.

第 1 章「森林と乾燥地」では，乾燥度指数や森林の定義から始まり，「乾燥地林」とは何かが解説される．実は，本書のタイトル自体がこれまで必ずしも定義されてこなかった新しい概念の提示であることがわかる.

しかも，常に具体的な事例で語られるため，とてもわかりやすい．例えば，サハラ砂漠がもはや南下拡大していない事例から，「生育環境が劣悪であればあるほど，そこに成立する生態系は強い攪乱耐性を持っている」（53 頁）ことを指摘する．言い換えれば，「厳しい環境の乾燥地では，植生が脆弱で，一旦劣化すると簡単には元に戻らない」と思い込んでいる私たちの無意識バイアスを正してくれる.

第 2 章「乾燥地林が持つ機能」でも，私たちの陥りやすい先入観は正されるだろう．「緑のダム」として知られている水源涵養の機能だけでは乾燥地林を理解することはできない．安易な森林の造成はむしろ下流域の広い範囲で水資源を枯渇させるかも知れず，「林地の水源涵養機能を高めるための緑化は，乾燥地では水源を喪失させる危険を併せ持った両刃の剣なのである」（81 頁）と警鐘を鳴らす.

本書全体を通じて，湿潤地域に暮らしてきた私たちの思い込みを解き放ちながら，第 3 章「乾燥地の利用と課題」，第 4 章「乾燥地林の修復と造成」へと続く．いずれの章においても，著者自身の実態調査を事例にして具体的に説明されているため，わかりやすさが一貫している．と同時に，決定的な解決策があるわけではなく，学術も技術もなお研究途上であり，「乾燥地の環境と森林，そしてそこに依拠している社会をもっと知らなければならない」と結んでいる（212 頁）.

木は，人類の始まりから親密で大切な資源であると同時に，21 世紀の現代においてますます重要な素材となっている．SDGs という抗い難い国際社会の掛け声のもと，グリーンビジネスとしての植林は，環境保全を名目として謳いながら資本主義を邁進する素材として木を利用している．だからこそ，科学的知見は大いに参照されなければならない．その意味で，極めて時宜にかなった出版であると言えよう.

最後に，評者の専門とするモンゴルに関して若干の知見を加えて，書評の責を塞ぎたい.

本書の 30 ページにモンゴル国中央県の写真が掲げられている．北斜面にのみ森林植生が見られる典型的な現象を雄弁に示しており，一般には，モンゴル語でハルモド（黒い木）と呼ばれるカラマツである．ただし，本書ではカンバ・トウヒ混淆林と解説されている．カンバはモンゴル語ではホス，トウヒはガチョールと言う．興味深いことに，これらの樹種は地名に見受けられる．白樺があるという意味のホスタイは，ウランバートルの西方にある国立公園で，トウヒがあるという意味のガチョールトには，ウランバートルの東方にある社会主義時代の酪農地区で現在は巨大な観光施設がある．一般性よりも特殊性を反映した地名であろう．というのも，百本の木という意味のゾーンモドという地名は，例外的に南斜面に木々がある場合に与えられており，特殊性が地名化されやすいからである．こうした文化的な指標をぜひとも利用すべく，調査研究が学際的に推進されることを期待する.

（小長谷有紀）

学会記事

日本沙漠学会第 152 回理事会

日　時：2022 年 1 月 8 日（土）14：00～15：30

場　所：Web 会議

出　席：森尾貴広（会長），鈴木伸治，田中徹（以上副会長），渡邉文雄，豊田裕道（以上，監事），矢沢勇樹，川端良子，小長谷有紀，石川祐一，渡邊三津子，的場泰信，田島淳，島田沢彦（以上理事），安部征雄，森卓（以上，顧問），酒井裕司（副編集委員長），真田篤史，篠原卓（以上総務委員），齋藤哲治（事務局）

委任状：高橋新平，小島紀徳

議　題：

Ⅰ．報告事項

1．乾燥地農学分科会講演会（2021/11/25）報告

・石川理事から，2021 年 11 月 25 日にオンラインで開催された乾燥地農学分科会講演会「地球温暖化と乾燥地の食から未来を探る」について報告が行われた．

・講演会には，大学，メーカー，金融，コンサルタント，ゼネコン等の多岐にわたる分野から約 54 名の参加があった．

・講演会の開催にかかった経費が示され，同額を本部へ交付金として申請された．

・乾燥地農学分科会の 2021 年度の会計報告と 2022 年度の予算案が示された．

2．秋季シンポジウム（2021/12/11）報告

・石川理事から，2021 年 12 月 11 日にオンラインで開催された秋季シンポジウム「with コロナでの沙漠研究：post コロナに向けてのグッドプラクティスをシェアしよう」について報告が行われた．

・シンポジウムには，大学，研究所，メーカー，コンサルタント，ゼネコン等の多岐に渡る分野から約 30 名の参加があった．

3．日本地球惑星科学連合 第 25 回学協会長会議 報告

・森尾会長から，2021 年 11 月 29 日にオンラインで開催された日本地球惑星科学連合 第 25 回学協会長会議の内容が報告された．

・2022 年 5 月 22 日～6 月 2 日まで，現地（幕張メッセ）とオンラインによるハイブリッド方式での年次大会が開催される予定である．

・各学協会における表彰情報を掲載・更新するよう依頼があった．

4．2022 年（第 33 回）大会（酪農大・星野大会委員長）報告

・島田理事から，第 33 回学術大会について準備状況が報告された．

・酪農大学 星野会員が大会委員長を務め，オンラインと対面のハイブリッド開催を予定している．

・開催候補日は 6 月 11 日（土），12 日（日）として，理事会から大会委員会へ日程調整を依頼する．

・小長谷理事から，大会前日に千歳空港からホテルまでのバスをチャーターする予定であることが報告された．バスの有無や時間，金額，ホテル到着後の夕食の手配などが利用希望者数によって変わるため，事前申し込み制とする必要がある．

・川端理事から，通常大会前日の夕方に開催される拡大編集委員会の開催方法について相談があった．森尾会長から，参加希望者は千歳空港からのチャーターバス（早便）でホテルに向かい，夕食後に実施する案が提案され，その方向で大会委員会に会場調整などを依頼することになった．

5．2023 年（第 34 回）大会（宮崎大・入江大会委員長）報告

・島田理事から，第 34 回学術大会の準備状況について報告された．

・宮崎大学 入江会員が大会委員長を務め，対面での実施を検討している．

・開催日は 2023 年 5 月 27 日（土），28 日（日）を予定している．

6．おあしす

・島田理事から，おあしす 31-3 の作成状況について報告があった．

7．編集委員会報告

・川端理事から，原著論文のほか，6 月号に掲載予定の DT14 の論文原稿の査読を進めていることが報告された．

・特集号は，乾燥地農学分科会シンポジウム分を 6 月号，日本沙漠学会秋季シンポジウム分を 9 月号に掲載予定であることが報告された．

・海外からのレビュー論文（英語）の推薦があれば，編集委員会へ連絡するよう依頼があった．

8．学会賞受付状況報告【渡邊】

・渡邊理事から，現時点では推薦が無いことが報告された．

・今後おあしすでの周知を行い，それでも推薦が無い場合はメーリングリストでの周知と依頼も検討している．

9．財務報告

・矢沢理事から，1 月 7 日時点の財務状況について報告があった．

・活動準備金について，講演会等を実施後に財務担当へ請求書を提出ことが多いが，講演会等を予定している場合は事前（できるだけ総会終了後速やかに）に予算申請し，その内容に沿って執行，決算報告するよう依頼があった．
・渡邉監事から，年会費の未納者への対応について質問があった．矢沢理事から，未納者へは2021年10月の時点で請求書を再送しており，現時点での未納者に対して再度請求書を送付予定であることが説明された．
・学生会員は，卒業などにより活動実態のないまま会員資格が継続されてしまうことが多く，会費の未徴収へと繋がることがある．そのため，学生会員資格は自動継続でなく入金を以て継続となることが確認された．また，学生会員の講演会での発表資格は，前年度に会員であり，発表の年度も会員資格を維持（会費を納入）していることが条件であることも確認された．
・学生会員資格については，大会のお知らせ等でリマインドを行う．

10. Webページへのイラスト記事掲載
・森尾会長から，Webページの利便性を挙げるためのイラスト記事掲載について，準備状況が報告された．
・HPへのイラスト案が2つ挙がっており，その内容を検討している段階である．
・森尾会長から，記事の提案や監修者の募集があった．

Ⅱ．依頼事項

・森尾会長から，総会資料の作成について各担当理事に依頼があった．（会計，委員会報告（学会賞），分科会報告）
・各担当理事は，3月末までに資料案を総務担当に提出する．
・総会資料は，4月の理事会および評議員会で承認を得て，6月の講演会時に行う総会で提出される．

Ⅲ．その他

1．郵便局による学術刊行物指定の継続と見本の送付
・鈴木副会長から，学術刊行物指定の継続が提案された．現在は学会誌を郵送していないが，一度指定の継続を解除すると再指定時に煩雑な手続きを要する．一方，継続の手続きは，その意志の回答と刊行物見本の送付のみで良いため，今後の利用可能性を考慮し，審議の結果，継続することが承認された．
・継続手続きはこれまで総務担当が行っていたが，雑誌に関連することのため，今後は事務局が行うことも併せて承認された．

2．日本緑化工学会乾燥地緑化研究部会オンラインシンポジウム2021
・島田理事から，2021年12月11日に開催された日本緑化工学会乾燥地緑化研究部会オンラインシンポジウム「乾燥地における植物の生理生態と緑化」（三木大会委員長）について報告された．
・本来，第31回学術大会（岡山大学）時の公開シンポジウムで行う内容であったが，コロナウイルスの感染拡大により中止となり，今回の開催に至った．日本沙漠学会は共催となった．
・シンポジウムには，研究者，学生，一般参加者を含め83名の参加があり，盛況に行われた．

3．アンケートの協力依頼
・森尾会長から，北海道大学 大友瑠璃子氏が代表を務める共同研究グループより「フィールドワークにおける性暴力・セクシュアルハラスメントに関する実態調査アンケート」への協力依頼があったことが報告された．
・すでにメール審議が行われ，メーリングリストでの周知により協力することが承認されており，大友氏にも回答した．

4．大会等のWeb掲載
・森尾会長より，国際CIGR（2022年12月5日～10日）（https://www.jaals.net/）と公益財団法人国際緑化推進センターオンラインセミナー「厳しい環境下での 植林技術の開発：カーボンニュートラルに向けた5年間の取り組み」（2021年12月17日実施済み）（https://www.jaals.net/）についてHPにすでに掲載済みであることが報告された．

5．今後の学術大会・シンポジウムの日程・開催地および開催形式の確認
・2022年度学術大会：酪農学園大学
・2022年度秋季：沙漠工学分科会との共催
・2023年度学術大会：宮崎大学
・2023年　DT15 ICAL@Jordan

6．第153回理事会は，2022年4月16日（土）13時～15時にZoomで開催予定である．また，評議員会は，その後15時から同じくZoomで開催予定である．

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ 会 員 動 向 ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

●新入会員

正会員

黒澤　亮（ID：1159，東京農業大学）

学生会員

志田　夏美（ID：1160，京都大学大学院）

西村　貴志（ID：1161，東京農業大学）

●退会会員

正会員

藤本　直也

加藤内藏進

阿部　　修

平野　　聡

賛助会員・団体会員名簿

アースアンドヒューマンコーポレーション	194-0041	町田市玉川学園 8-3-23	Tel：042-710-7661
株式会社ウイジン	158-0097	世田谷区用賀 2-12-14	Tel：03-3700-0531
NTC インターナショナル株式会社	136-0071	東京都江東区亀戸 1-42-20	Tel：03-6892-3401
株式会社大林組技術研究所	204-8558	清瀬市下清戸 4-640	Tel：0424-95-1060